

原著及實驗

●「サルヅルサン」及ビ「ネオサル
ヅルサン」注射後ノ皮疹ニ就テ

臺北醫院皮膚科 池 上 豊(四四年
卒業)

黴毒ニ對シ「サルヅルサン」及ビ「ネオサルヅルサン」ノ水
銀劑ト共ニ特効アルコトハ既ニ承認セラル、所ナレモ其ノ
副作用ノ皆無タルハ蓋シ免レザル事實ニシテ吾人ノ遺憾
トスル所ナリ。

凡ソ「サルヅルサン」及ビ「ネオサルヅルサン」注射後ニ來
タル副作用トシテハ「サルヅルサン」發見以來現今ニ至ル
マデ諸家ノ研究ニヨリ注射方法ニ種々ナル改良ヲ加ヘラ
レシ結果其ノ中多クノモノハ除外セラレタルモ尙多少ノ

副作用ハ現今マデ使用セラレタル如何ナル方法ニヨルモ
未ダ免ル能ハズ其ノ種類又多様ニシテ是レヲ別ツテ二ト
ナスヲ得。

一、「サルヅルサン」注射ノ爲メ體內ニ生存スル「スピロ
ヘーテ」ノ死滅シ夫ノ菌毒素ニヨルモノ

二、「サルヅルサン」及ビ「ネオサルヅルサン」中ニ含有スル
砒素ニ歸因スルモノ、

而シテ注射後ノ皮疹ハ後者ニ屬シ普通砒素ガ起ス藥疹即
チ亞砒酸疹ニ一致シ他ニ「サルヅルサン」注射後ニ起ル副
作用ニ比シ稀有ナルモノトス。

此ノ皮疹ニ就ヒテ文獻ヲ調スルニ「サルヅルサン」疹ハ數
十例ニ達シ其ノ形况多様ナレモ總ジテ蕁麻疹様紅斑多形
滲出性紅斑、中毒性紅斑、麻疹様紅斑、猩紅熱様紅斑、
局所浮腫、紫斑帶狀疱疹、口唇疱疹、砒素性黒皮症、汗
疹様發疹、咽頭及口粘膜疹落屑性皮膚炎等ノ記載ヲ見ル
而シテ皮疹ニ就キ諸家ノ報告セシ所ヲ總括センニ先ヅ發

生時間ハ注射後早キハ五時間(村澤氏)八時間(グルック氏)ニシテ遅キハ十二日(村澤氏アルト氏)目ナリキ又持續ノ期間ハ一定セザルモ大約數日ヲ費シテ何等ノ障害ナク消褪スルモノ多キモ尙數週、數月年餘ニ色素沈着「アルゼンメラノーゼ」ヲ殘セシモノアリ(河野氏中野氏)發生ノ部位ハ全身何レヲ問ハズ發シ得ルモ頭部ニハ稀ナルガ如シ中ニハヘルクスハイマー氏反應ニ類似シ同反應ト混ジタルニアラザルカヲ疑ハシムルモノモナキニアラズ皮疹ト同時ニ熱發其ノ他ノ副作用ヲ隨伴スルモノ單ニ發疹ノミニ止マルコトモアリト

吾ガ臺北醫院皮膚科ニ於テ大正二年七月ヨリ大正三年十二月迄ノ一ケ年半ニ三十二例ノ「サルグルサン」靜脈内注射二十例ノ「ネオサルグルサン」靜脈内注射百九十五例ノ「ネオサルグルサン」濃厚液靜脈内注射四例ノ「ネオサルグルサン」濃厚液臀筋内注射合計二百五十一例ノ「サルグルサン」及ビ「ネオサルグルサン」注射後ニ次ノ六例ノ皮疹ヲ實驗シタリ今其ノ病歴ヲ略記センニ

第一例 「サルグルサン」性蕁麻疹口唇疱疹兼色素沈着

奥本某 女 三十五歳 第貳期梅毒 體重五三三二五瓦

「サルグルサン」〇、四 第一回靜脈内注射後八日目ニ至リ頭痛全身ノ不和ヲ前驅シ顔面軀幹四肢一面ニ皮膚ヨリ浮腫狀ニ隆起シタル大小種々ノ不規則ナル類圓形ノ發疹ヲ生ジ輕度ノ癢痒ヲ自覺シ指壓ニテ褪色ス全時ニ口唇殊ニ上唇ヨリ口角ニカケ數個ノ内容透明ナル小豆大ノ水泡疹ヲ生シアルモノハ破壊シ疼痛ヲ訴フ後七日目ニ全ク消失シタレバ第二回注射(第一回ヨリ十五日目)ヲ前ト全量ニ行フ注射後七時間ヲ經テ三十九度八分ノ熱發ト共ニ前ヨリ一層劇烈ナル全樣ノ發疹ヲ來タシタリ後約壹週間ニテ熱ノ減ズルニ並行シテ發疹ハ漸次消失シタルモ暗褐色ノ色素沈着ヲ殘シ數月ヲ經過スルモ依然トシテ存ス患者ハ爲メニ畫面外出ヲ恥ヅト訴フ該色素沈着ハ精密ナル組織的檢査ヲセザルヲ以テ斷定ハナシ難キモ臨床上是レ正シク「アルゼンメラノーゼ」ニ一致セリ

第二例 「サルグルサン」性多形滲出性紅斑兼口唇疱疹

吉田某 男 二十九歳 潜伏梅毒 體重四九五三〇瓦

ワツセルマン氏反應強陽性ナリシヲ以テ外來ニテ楊朮臀筋内注射三回ヲ受ケシ後第一回「サルグルサン」〇、四 靜脈内注射ヲ受ケシモ何等ノ副作用ナカリシカバ七日ノ間歇ヲオキ第二回注射ヲ前ト全量ニシタルニ翌日四十度三分熱發シ頭痛嘔氣惡心アリ五日後平溫ニ復スルト全時ニ軀幹四肢ニ約扁豆大ノ多數ナル橢圓形暗赤色ノ紅斑ヲ生ジ皮膚ヨリ少シク隆起シアルモノハ互ニ融合シテ銅貨大ニ達スルモアリ指壓ニテ消褪ス、口唇ニハ數個ノ小豆大針頭大ナル水泡疹ノ群集ヲ見、口腔粘膜炎一般ニ發赤シ咽頭軟口蓋ニハ暗紅色ノ紅斑ヲ認メタリ是等ノ發疹ハ拾日後ニ全部消失シタレバ拾五日目ニ第三回「ネオサルグルサン」〇、六 靜脈内注射ヲ行フ

ニ注射翌日ニハ前面ト全様ノ紅斑ヲ生ジ加フルニ顔面ハ浮腫狀ニ腫起チ來タシタリ(尿中蛋白ハ証明セズ)約拾日後全部消失シタリ。

第三例 「ネオサルブルサン」性多形滲出性紅斑

宮崎某 男 第貳期梅毒 體重五一七六七瓦

「ネオサルブルサン」〇、六濃厚液ヲ三回六日ノ間歇チガキ靜脈内ニ注射ス第一回第二回ハ何等ノ副作用ナカリシニ第三回注射ニ際シ熱發三十九度五分ニ達シ惡寒戰慄嘔吐ト共ニ兩側ノ手掌足蹠下腿ニ紅色ニ輕度ノ癢痒アル紅斑ヲ見タルモ三日後ニ全ク消失シタルバ六日後ニ第四回注射チ行ヒタルニ前ト全様ナル發疹ニ加フルニ咽頭口腔口唇ニ鮮紅色ノ紅斑ヲ生ジタルモ約五日後ニハ後障害ヲ殘サズ全ク消失シタリ。

第四例 「ネオサルブルサン」性角化症

藤本某 男 四ヶ月 遺傳梅毒 體重四二二〇瓦

「水銀レゾルビン」ノ塗擦療法ト昇汞浴ヲ持續シ居タリ、始メ「ネオサルブルサン」〇、〇二五ヲ食鹽水一、〇〇〇ニ溶解シテ臀筋内ニ六日ノ間歇チ以テ三回注射セリ然ルニ第二回注射後三日目ニ他ニ何等ノ副作用ナクシテ兩側ノ足關節ノ外方外顆ノ下方ニ當リテ左右對側性ニ針頭大ノ棘狀結節拾數個散点シ色ハ帶黃褐色ニシテ硬ク粗糙ナリ第三回注射ニテ増加スルヲナク月餘ヲ經過スルモ變化モ消失モセズ依然原形ヲ保チ得タリ後患者ハ退院シ未ダ再診ノ機ヲ得ズシテ其ノ狀態ヲ知ルニヨシナキハ遺憾ナレト疑モナキ「アルゼンケラトローゼ」ニシテ退院時ノ發疹ノ狀態ニテハ永ク消失スルヲナキモノ、如シ。

第五例 「ネオサルブルサン」性蕁麻疹兼落屑性皮膚炎

桑原某 女 二十八歲 第貳期梅毒 體重五四六〇〇瓦

患者ハ上記ノ診斷ノ下ニ二十七回ノ楊汞注射ヲ受ケシ後六日ノ間歇チガキテ二回「ネオサルブルサン」〇、六濃厚液靜脈内注射チ行ヒタルニ第二回注射後九時間ヲ經テ三十九度ノ熱發ト著シキ全身症狀ヲ伴ヒテ全身ニ發疹セリ顔面ハ一般ニ浮腫ヲ呈シ發赤シタル皮膚ハ癒合シ結膜炎ヲ起シ爲メニ流淚甚シク軀幹四肢ニハ屈側伸展側ノ區別ナク一面ニ暗赤色ノ皮膚ヨリ浮腫狀ニ隆起シタル大小種々ナル類圓形ノ發疹ヲ認メ全時ニ尿中ニ蛋白ヲ証明シ腎臟上皮膀胱上皮赤血球ヲ混ジタリ發疹ハ後漸次褪色チ始メ九日目ニハ發熱尿中ノ異常成分全ク消失スルト共ニ糠秕樣ヨリ板狀ノ大小種々ナル落屑ヲ來タシ夫レノ止ムト全時ニ輕度ノ色素沈着ヲ殘セリ。

第六例 「ネオサルブルサン」性麻疹樣紅斑

鐘 某 男 十八歲 斑紋癩 體重四五三四〇瓦

「ツベルクリン」ノ皮下注射大楓子油ノ内服ト共ニ五日ノ間歇チガキテ二回「ネオサルブルサン」〇、六濃厚液靜脈内注射チ行ヒシニ第一回ハ何等ノ副作用ヲ見ザルモ第二回注射後三日目ニ、三十九度ノ熱發ト他ノ全身症狀ヲ隨伴シテ全身一面ニ針頭大ヨリ麻實大ノ隆起スル無數ノ鮮紅色ノ指壓ニテ褪色シ毛囊ニ一致シタル麻疹樣發疹ノ蔓延チ見タリ咽頭發赤腫脹シ疼痛ヲ訴フ注射後五日目ニ全ク消失シタリ。

以上余ノ經驗セシ六例ニ於テハ發疹ノ種類ハ蕁麻疹、口唇疱疹、色素沈着多形滲出性紅斑、角化症、落屑性皮膚炎、麻疹樣紅斑ノ七種ニシテ第四例ノ角化症ヲ除クノ外ハ皮膚

ニ隨伴シテ高度ノ熱發神經症狀甚シキハ内臟ノ障害ヲ見
 タリ尙發疹ノアルモノハ輕度ノ癢痒ト疼痛ヲ有スル外何
 等ノ自覺症ヲ訴ヘズシテ全身何レノ區別ナク發生シタリ
 注射時ヨリ發生マデノ時間ハ早キハ七時間遲キハ十三日
 ナリキ多クハ七、八日ニ第二回注射後ニ發シタリ消失ハ
 早キハ五日ニシテ全部去リ遲キハ數月ニテ尙存スルモ見
 タリ只角化症ニアリテハ他ノ六例ノ發疹トハ其ノ趣キヲ
 異ニシ發疹ニ隨伴シテ何等他ノ副作用ナク部位モ兩側ノ
 足關節ノ外方ニテ對側性ニ發シ次回ノ注射ニテ毫モ増劇
 スルコトナク十數日後ヲ經過スレモ變化セズ原形ヲ保チ消
 失スル模様ナク依然タルヲ觀察セリ

「サルヴルサン」及ビ「ネオサルヴルサン」注射後ニ於テ余
 ノ實驗セシ如キ「アルゼンケラトーゼ」ハ稀ニシテ未ダ何
 レノ文獻ニ調スルモ係ル報告ニ接セズ且ツ本例ニ於テハ
 他ノ例トハ病症及ビ注射方法ヲ異ニス即遺傳微毒ニシテ
 「ネオサルヴルサン」ノ濃厚液ノ臀筋内注射ヲ行ヒタルモノ
 ナレバ本症ハ或ハ夫レト何等カノ密接ナル關係ヲ有スル
 ナランカ爾後ノ研究ニ待ツベキナリ
 猶六例ノ小實驗ヲ基礎トシテ論ズレバ「サルヴルサン」及

ビ「ネオサルヴルサン」注射後ノ皮疹中「口脣ヘルペス」麻
 疹様疹及ビ多形滲出性紅斑ハ後障ヲ殘サズ數日ニシテ消
 失スレモ蕁麻疹様疹ニ至リテハ割合ニ永ク存シ久シク色
 素ノ沈着ヲ殘シ且ツ熱發其他ノ副作用ヲ併發スルモノ、
 如シ獨リ「アルゼンケラトーゼ」ノミハ他ノ副作用ヲ隨伴
 セズ原形ノ儘變化ナク永ク止マルモノ、如シ

皮疹ノ發生原因トシテハ「サルヴルサン」ニ對スル特異質
 過敏說、注射操作ノ巧拙及ビ不注意「サルヴルサン」ノ蓄
 積作用微毒ノ時期ニ關係等ヲ以テ説明シ居レリ然レモ余
 ノ二百數十例ニ於テハ各期微毒患者ヲ網羅シ且ツ注射方
 法モ皮下注射ヲ除ク外凡ユル方法ヲ使用シ且溶解液モ食
 鹽水蒸餾水々道水ヲ應用シ藥劑ノ用量モ體重ニ從ヒ種々
 用キタルモノナレド皮疹ハ注射患者ノ總テニ發セズ其ノ
 内僅カ六例ノ少數ニ見タルノミニテ且ツ微毒ト關係ナキ
 一名ノ癩患者ニモ起シタレバ注射ノ操作「サルヴルサン」
 ノ溶解液微毒ノ時期患者ノ年齡等ハ原因トシテ其ノ説明
 ニ満足スル能ハズシテ一般ノ亞砒酸疹ト同様ニ「サルヴ
 ルサン」ニ對スル特異質ニ由ルハ明カニシテ且ツ余ノ六
 例中第一回ハ何等ノ副作用ナクシテ第二回ニ皮疹ヲ生ジ

タルモノ三例第一回第二回ニ何等障害ナクシテ第三回ニ生ジ四回ニ一層劇烈トナリシモノ一例第一回ニ發シ第二回ニ一層劇烈ニ生ジタルモノ一例第二回ニ發シ三回ニ一層著シカリシモノ一例ナリキ而シテ此ノ如キ實驗ニテハヤダーソン氏ガ嘗テ「サルヴルサン」ニ對スル特異性ガ用量ニ關スト證セシ如ク特異質ガ藥劑ノ蓄積作用ニ大ナル關係アルコトハ證シテ餘リアリ

結 論

- 一、「サルヴルサン」及ビ「ネオサルヴルサン」注射後ノ皮膚ハ通常亞砒酸疹ニ一致ス
- 一、皮膚ハ發熱其他ノ副作用ヲ伴ヒ多クハ數日ニシテ消失スレモ中ニハ色素沈着ヲ永ク存スルモアリ
- 一、皮膚中角化症モ起シ得而シテ角化症ハ永ク消失セザルモノ、如シ
- 一、皮膚ハ患者ノ年齢男女ノ別微毒ノ時期注射方法（皮下注射ハ除ク）溶解液ノ種類等ニ關スルコトナク「サルヴルサン」ニ對スル各人ノ特異質ト「サルヴルサン」ノ蓄積作用ニ大ナル關係アルガ如シ

●閃輝性融解症ノ一例

Ein Fall von Synchisis stinelliana.

ドクトル 辻 本 辰 之 助 (三三年業)

余ハ偶々本症ノ一例ニ相遇セリ敢テ珍トスルニ足ラザル可ケンモ茲ニ本症ノ餘白ヲ汚ス事トセリ蓋シ本症ハ硝子体融解症ノ一種ニ屬シ老人ニ見ル所ニシテ其光輝ヲ發生スルハ無數ノ強ク光線ヲ屈折スル結晶即チ主トシテ「コレステアリン」ナレモ往々「チロジン」「マルガリン」等ニシテ或ハ燐酸鹽ナリト稱セラル而シテ其等發生原因及ビ硝子体ヘノ分泌條件ハ今尙ホ不明ナリ

患 者 石 ○ 義 ○ 男 六十一歳 自轉車販賣商

既往症、幼少ノ頃天然痘ニ侵サレ青年時腸胃扶斯チ憂ヒ一ヶ月餘臥褥ス十年前横痃ヲ生ジ醫治ニヨリ化膿スル事ナク消散セルコトアリ、四、五年前ニハ顔面ニ浮腫感アリ當時檢尿セシモ糖及蛋白ヲ認メザリシト其後毎年斯ル事アリシモ數日ニシテ消散シ一兩年前ヨリ左ルコトナシト云フ、血族中遺傳的疾病及ビ眼底病ニ侵サレタル者ナシ去ル大正三年十二月初旬偶然右眼視力障礙ニ注意セリ而シテ蚊虻視、變視症ヲ有セザルモ眼瞼ヲ狹少セバ患眼前ニ黒点ノ密集スルヲ注意シ健眼即チ左眼前ニハ光輝アル水泡様輪ノ浮動スルヲ見ルト云フ、